株式会社ジェイアール東日本企画
総務局広報部
〒150-8508 渋谷区恵比寿南1-5-5
TEL:03-5447-0974 FAX:03-5447-7810
2022年3月9日

jeki ソリューションレポート

イマドキファミリー研究所　2021年度研究

令和的共働きパパママは 個人の時間も大切にする『ダブルス夫婦』

株式会社ジェイアール東日本企画 イマドキファミリー研究所では、2021年度の研究として、家庭生活の運営におけるパパとママの関係性を分析しました。

夫婦と児童からなる世帯における共働き率は71.1％【※2020年労働力調査より】を占め増加の一途を辿っています。そこで、改めて令和時代の共働きパパママがどのような役割分担で家庭運営を行っているのか、そこに紐づく意識を読み解き、夫婦の関係性を明らかにしました。

＜**夫婦パターンの分類方法**＞夫婦の【家庭運営の主体性】【家庭運営の実行度】の役割分担と、【分担に対する満足度】を聴取・分析し、パターン分けを実施しました。（最終ページに分類方法の詳細を掲載。）

最新の共働き夫婦パターンは大きく３分類

個人の時間も大切にする ダブルス夫婦 【構成比：20.0％】

家事・育児は阿吽の呼吸で協力し合い、混合ダブルスでチームプレイ。個人の時間もそれぞれ楽しむスタイル。

主役ママと裏方パパ 【構成比：27.0％】

家庭運営の主役はママだが、パパも縁の下の力持ちで育児に参加。ママの満足度も高く、休日は家族団らんを楽しむ円満夫婦。

献身ママの ワンオペ夫婦 【構成比：26.3％】

家庭運営全般をママが担当。忙しくても料理は手作りなど、家族に献身的に尽くす頑張り屋のママ。その分ストレスも多く、役割分担に対する不満あり。

『ダブルス夫婦』が令和的スタイル

イマドキファミリー研究所では、以前より共働きパパの家事・育児実施率の高さに注目してきました。過去の研究では、夫婦間の意識にギャップがあり、実態はママに家事育児が偏りがちであったことが分かっています。

しかし、コロナ禍を経てパパの家事・育児参加率も増加傾向になり、その中でも**従来は実施率が低めだった育児にもパパが積極的に参加する共働き夫婦が、比較的若い層に見受けられるようになりました。**今回の3分類の「ダブルス夫婦」がこれにあたります。

令和4年4月より段階的に施行される育児・介護休業法の「産後パパ育休」によって男性の育児参加が促進されれば、**『ダブルス夫婦』が今後ますます増加し、令和的共働きパパママの新定番スタイルになっていくのではないかと考えられます。**

※首都40km圏で、末子小学校3年生以下の共働き家庭のパパママ、専業主婦家庭のパパママを対象に調査を実施しました。
※本リリースにおける「共働きパパ」「共働きママ」は、自身及び配偶者がフルタイムで働いているパパ・ママを指しています。
※本リリース内容は、共働きママへの聴取内容より読み解いています。

パターン①

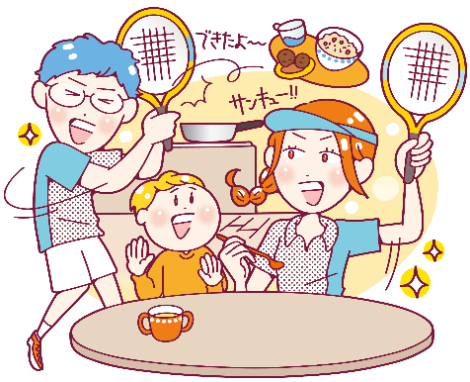
n=60

個人の時間も大切にするダブルス夫婦

家庭運営はフォローし合いながら乗り切るダブルス戦
互いの個人の時間も大切に

【家庭運営の主体性：二人で】【家庭運営の実行度：二人で】【ママの満足度：満足】

【構成比：20.0%】



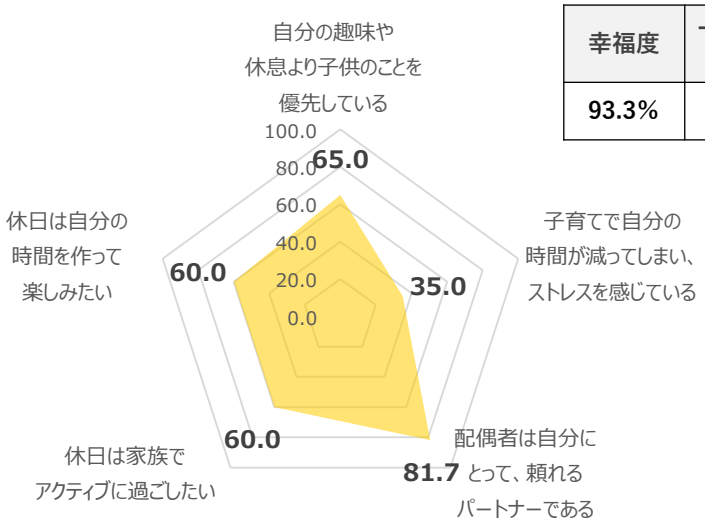
二人で家庭運営を行い、その役割分担にも満足している分類です。

夫婦それぞれの年齢が比較的若く、他の分類では参加率が低い「子供関連行事への参加」も42.8%と高くなっており、**パパが積極的に育児に参加**している夫婦です。**家事育児はどちらか一方ではなく二人の役割として捉えている**のが特徴です。

また、「休日は自分の時間を作って楽しみたい」が60.0%と、自分の時間を大事にする傾向があります。サポートし合うことで**「親」としての役割に縛られすぎず、「個」としてのお互いの自分の時間も尊重しているようです。**

「配偶者は頼れるパートナー」（81.7%）という意識も非常に高く、**家事育児では阿吽の呼吸でお互いをフォローし合い、自分が楽しむことも忘れない「ダブルス夫婦」は、構築された信頼関係によって成り立っていると言えます。**

■家族・仕事・子供意識



■家族・仕事・子供意識

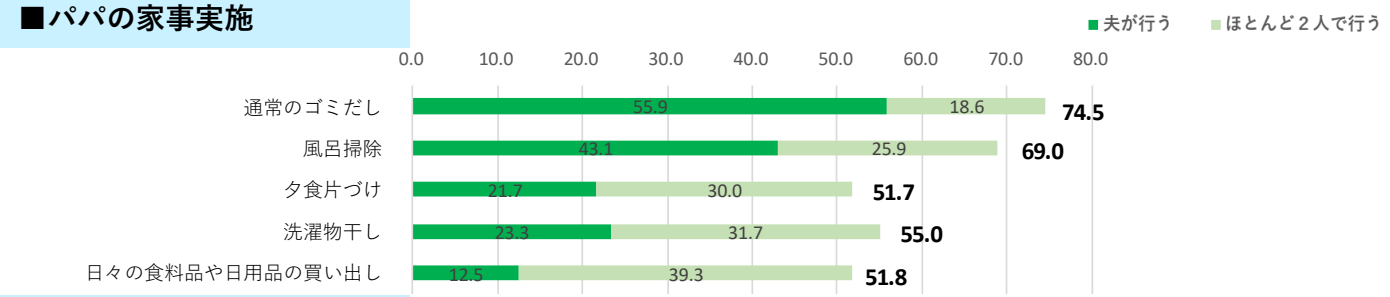
幸福度	一人っ子率	世帯年収	ママの平均年齢	ママの30代以下構成比	パパの平均年齢	パパの30代以下構成比
93.3%	58.3%	1280万円	36歳	70.0%	38歳	53.3%

■平日の夕食

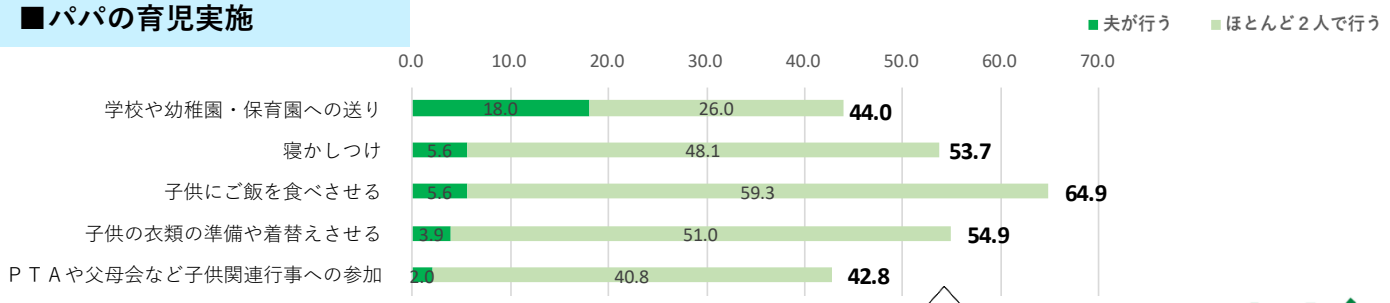
平日毎日料理する割合	レトルト食品週１以上利用率
70.0%	26.9%

平日の炊事時間	休日の炊事時間
60.0分	74.0分

■パパの家事実施



■パパの育児実施



パターン②

n=81

主役ママと裏方パパ

家庭運営はママが主役
パパは縁の下の力持ちで、育児参加で信頼関係もあり

【家庭運営の主体性：ママ】【家庭運営の実行度：ママ】【ママの満足度：満足】

【構成比：27.0%】

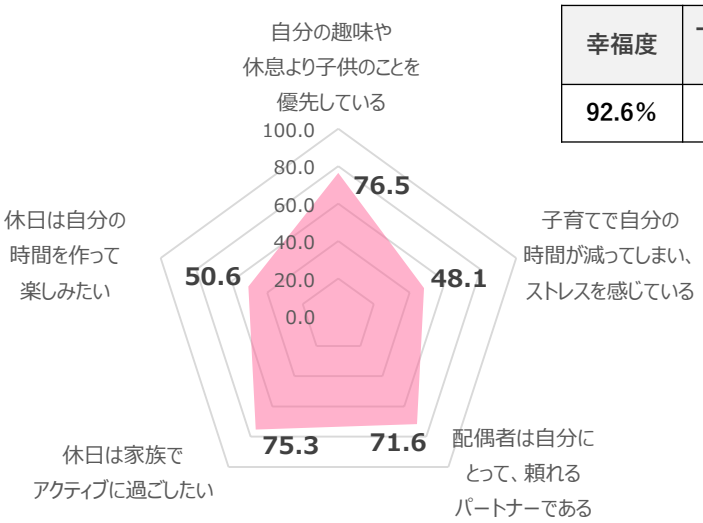
家庭運営の主体も実行もママなので、一見ママだけに家庭の負担が偏っているように思えますが、ママ自身はこの役割に満足しているというところが大きな特徴です。その背景に、実際はパパも「保育園への送り」（40.9%）、「寝かしつけ」（25.7%）といった**一部の育児に関与し縁の下の力持ちとして信頼関係が築けている**ことがあります。

ママ自身においては平日の夕方に料理する頻度が、週5日(66.7%)が他の分類に比べて低く、レトルト食品の利用率も高いという特徴があります。「母親は毎日料理を手作りするべき」という概念に囚われず、**適度に便利なレトルト食品を取り入れながら上手に労力を省いています。**

「休日は家族でアクティブに過ごしたい」という意識も75.3%と高く、家族で一緒に過ごす時間を大切にしていることも特徴です。

家族円満の背景には、ママの効率的な実行力と、パパの“縁の下の力持ち”サポートがあるようです。

■家族・仕事・子供意識



■家族・仕事・子供意識

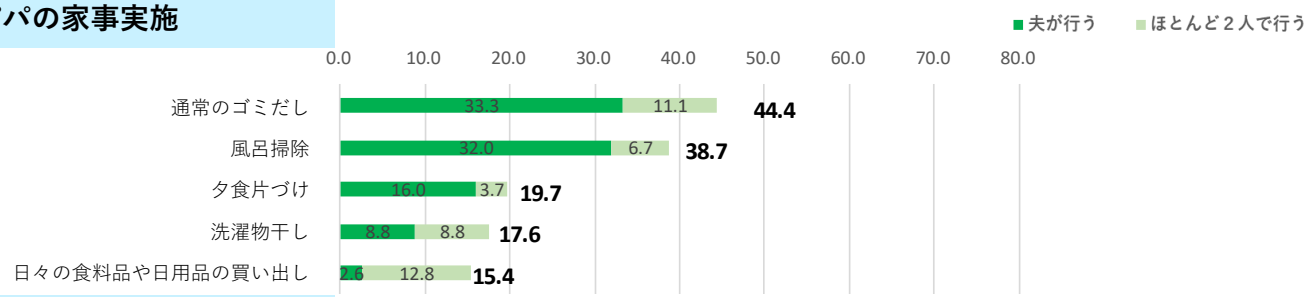
幸福度	一人っ子率	世帯年収	ママの平均年齢	ママの30代以下構成比	パパの平均年齢	パパの30代以下構成比
92.6%	51.9%	1197万円	38歳	60.5%	39歳	55.5%

■平日の夕食

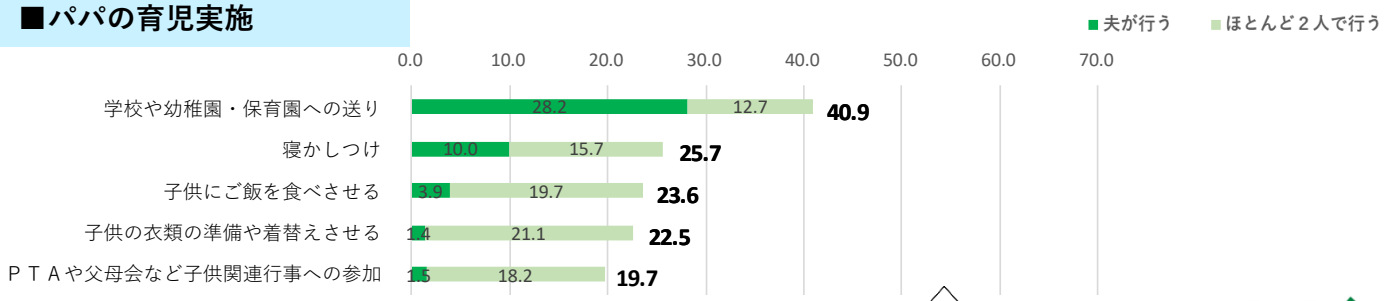
平日毎日料理する割合	レトルト食品週１以上利用率
66.7%	30.9%

平日の炊事時間	休日の炊事時間
55.1分	71.3分

■パパの家事実施



■パパの育児実施



パターン③

n=79

献身ママのワンオペ夫婦

家庭運営はママ任せ
パパは家事も育児もママ任せで、ママは不満を抱える

【家庭運営の主体性：ママ】【家庭運営の実行度：ママ】【ママの満足度：不満】

【構成比：26.3%】

ママに負担が偏っている、いわゆるワンオペママ家庭です。

パパの育児参加も３分類の中で最も低く、**パパに対する「子供の親」としてのママの評価が低く、ママが不満を感じている**ことが特徴です。

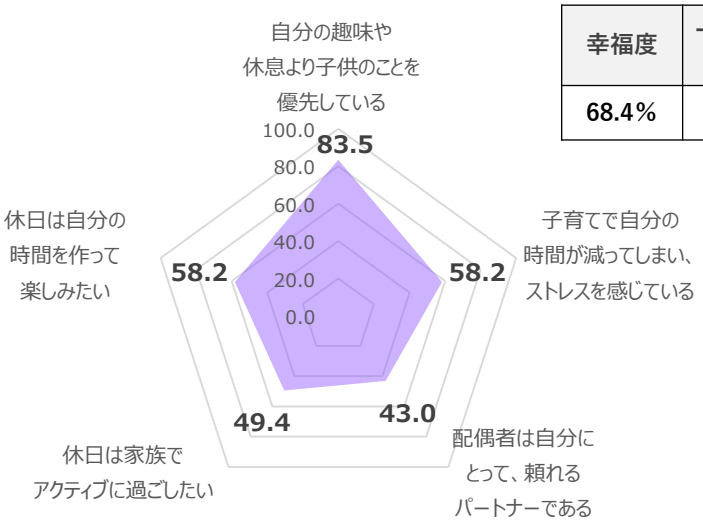
「配偶者は頼れるパートナー」という意識も43.0%と低く、**困っている時にも助けてもらえないと感じている様子です。**

ママ自身については、平日の料理頻度が82.3%と一番高く、休日でも炊事時間が97.2分と他の分類より20分以上長いこと、レトルト食品の週1以上利用率が20.0%と他の分類に比べて低いことから、**家族のために食事は毎日手作りする意識が高い**ことが分かります。

また「自分の趣味や休息より子供を優先」（83.5%）しており、それによるストレスも感じています。

家族のために献身的に尽くしているママに対して、家事育児はママ任せのパパという二人のスタンスのギャップが大きい夫婦です。

■家族・仕事・子供意識



■家族・仕事・子供意識

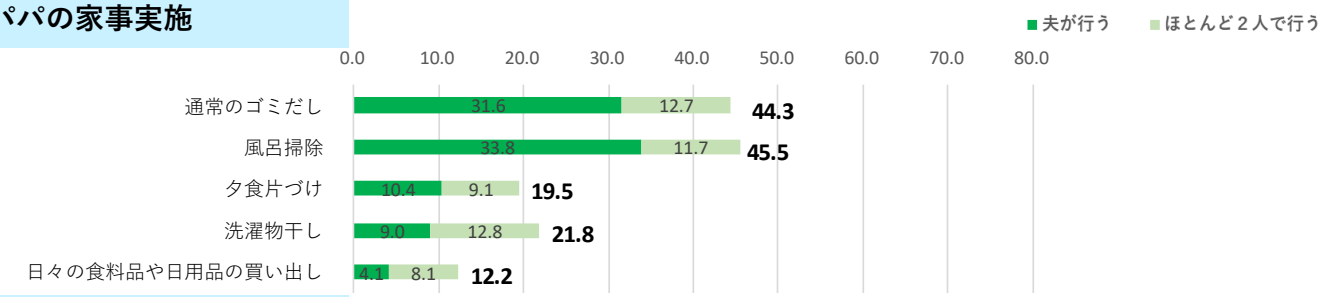
幸福度	一人っ子率	世帯年収	ママの平均年齢	ママの30代以下構成比	パパの平均年齢	パパの30代以下構成比
68.4%	48.1%	1184万円	40歳	45.5%	41歳	41.8%

■平日の夕食

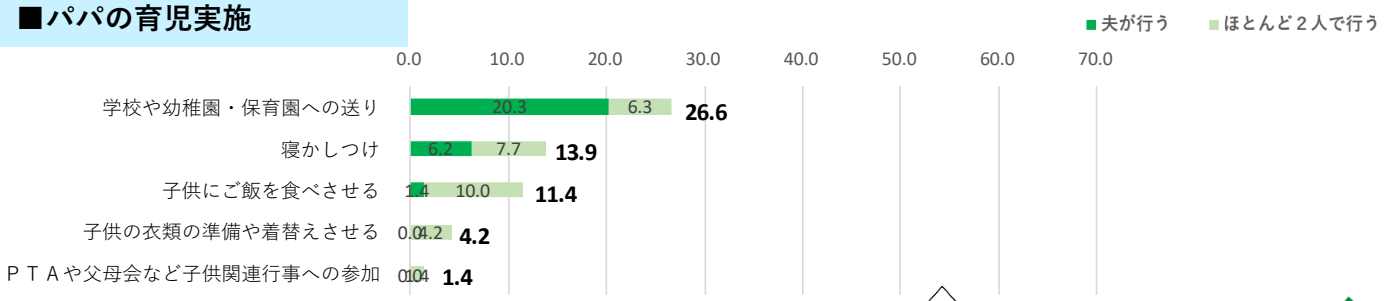
平日毎日料理する割合	レトルト食品週１以上利用率
82.3%	20.0%

平日の炊事時間	休日の炊事時間
70.0分	97.2分

■パパの家事実施



■パパの育児実施



イマドキファミリー研究所
「子育て家族に関する調査」調査概要

1. 調査方法：クローズドモニターによるウェブアンケート調査　　＊スクリーニング・本調査一体式調査
2. 調査対象：下記条件に当てはまる対象者
   ①25～49歳の子供がいる男性・女性
   ②自身および配偶者の親との同居なし（夫婦＋子供のみで同居の世帯が対象）
   ③夫（パパ）がフルタイム勤務【週5日週35h以上就労者】
   ④ママの働き方×末子の年齢で割付
   ＊共働きママは、正社員・契約社員・（派遣社員）で、週5日以上週30時間以上勤務
   ⑤職業除外：マスコミ・メディア関連、広告代理店、調査会社
3. 調査日　：2021年8月31日（火）～2021年９月13日（月）
4. 有効分析数

合計1,800サンプル		末子学齢			計
		0～2歳（～幼稚園年少・3歳児クラス未満）	3～5歳（幼稚園年少～年長）	小学校1～3年生（6～9歳）	
パパ	（妻が）専業主婦	100	100	100	300
パパ	（妻が）短時間勤務者	100	100	100	300
パパ	（妻が）フルタイム	100	100	100	300
ママ	専業主婦	100	100	100	300
ママ	短時間勤務者	100	100	100	300
ママ	フルタイム	100	100	100	300

5. 調査対象地域：首都40㎞圏（東京駅を中心として半径40㎞圏内の一都三県の市区町村が対象）
   -「40㎞圏に全てが入っていない市町村」については40㎞圏への掛かり具合や、都心へのアクセスを考慮し選定

＜夫婦パターンの分類方法＞

「日常生活／レジャー／子供関連」ごとに「計画主体性／実践実行」をパパとママどちらが主体的に実施しているか、それに対する満足度はどうかを聴取し、パターン分けを実施しました。

以下のことをご自身と配偶者のどちらが担当していることが多いですか。

家庭運営の主体性	家庭運営の実践・実行
✓ 家族のレジャーについて予定を立てる・考える ✓ 子供関連のスケジュール・内容・情報について把握する ✓ それ以外の家族の生活について予定を立てる、考える	✓ レジャーの準備をする ✓ 子供の世話・勉強を見るなど、日常的に子育てに関わる ✓ 日常の家事をする

×

役割分担について どのように感じていますか

役割分担 満足／不満
A.満足 B.不満

※本リリース内容は、共働きママへの聴取内容より読み解いています。

「イマドキファミリー研究所」について

イマドキファミリー研究所

「イマドキファミリー研究所」は 、働き方改革や育児スタイルの変化など子育て中の家族を取り巻く環境の変化に着目し、イマドキの子育て家族のインサイトを捉え、企業と家族の最適なコミュニケーションを発見・創造することをミッションとしたプランニングチームです。

当社の情報発信サイト「恵比寿発、」では、本研究所のメンバーが、さまざまな研究データをもとに、イマドキ家族の実態を定期的に発信しています。ぜひご覧ください。

「恵比寿発、」　https://ebisu-hatsu.com/
「イマファミ通信」　https://ebisu-hatsu.com/rensai/rs_imafami/　※「恵比寿発、」内

※本件については、東京商工会議所記者クラブにお届けしております。

本件に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。
株式会社ジェイアール東日本企画　コミュニケーション・プランニング局
イマドキファミリー研究所メンバー　高野・荒井・澤・土屋　TEL:03－5447－7857